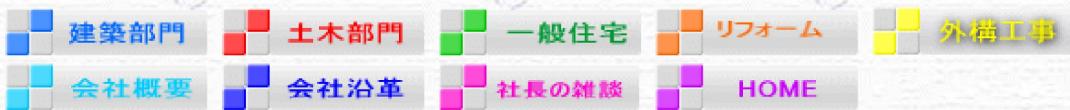


未来への遺産を創造する ハートフルコンストラクター 荒牧組



↓ここをクリック
過去の 社長の雑談 ^

<軍道の桜> H21. 3. 31

昨日、体調を崩して入院している伯母を見舞うため、日光街道を車で走りました。日光街道の山桜は、まだまだ蕾がかたく、まだ開花には間があるみたいです。

この山桜には、とても想い出があります。もう10数年前にもなるでしょうか。現場から真っ黒になつて帰ってきた夫が「日光街道の桜すごいよ、行って来な~」と言うので、母とすぐ車をとばしたのを思い出しました。もう桜ふぶきでしたが、何キロも続く桜のトンネルは素晴らしく、一回ではもったいないので二往復ぐらいした様に覚えています。

それから機会があるごとに通るのですが、あの時の様な良いタイミングのことは少ないです。

母は、桜のたびに「あの時の軍道の桜は良かった」としきりに言っていたのを思い出しました。昔の人は、今の桜通りのあたりに宇都宮の第14師団があったので“軍道”と呼ぶのだそうです。その昔は、道の両側に500有余本の吉野桜が植えられていたそうです。

今年はぜひ、あの山桜のトンネルを良いタイミングで走ってみたいです。

といえば、夫とも母ともずいぶん桜は見たものだなあと思っています。

<花 彼岸> H21. 3. 23

お彼岸も終り、いよいよ春本番という陽気になってきました。競うように花が咲き始め、ワクワクする季節になってきますね。車で、そこいらを走っても美しい風景が目にとびこんできます。

母の初彼岸には、皆さんに沢山のお花を頂き、母の仏壇は花でいっぱいでした。

ところで、お彼岸の供え物と言えば、花はもちろんですが、おはぎ・おだんご・ぼたもちなどなどありますが、調べてみましたところ

春の彼岸は牡丹の花で牡丹餅(ぼたもち)
秋の彼岸は萩の花でおはぎ

なんだそうです。日本人のこじつけも、やっぱり花にこだわった素敵なものですよね。

<クリスマスローズ> H21. 3. 11

我が家庭にクリスマスローズが美しく咲き出しました。

昨年のひなめぐりの時に鉢植えの赤と白を頂いたものです。お雛さま以上にお客様から評判の良かったものです。鉢のままだと、とても自信がないので、地植えにしたものです。ぎっしりと蕾がいっぱいなので楽しみです。

花言葉は、「追憶」「私を忘れないで」「いたわり」などだそうです。といえば、うつむきかけんのその風情はあまり自分を主張しすぎず、それでいて存在感のある花です。



<妹からのメール> H21. 3. 6

お姉さんのブログを見せて頂きびっくり！！でした。

Aさん的一番の思い出は何時だったかは忘れてしましたが、大晦日の事です。荒牧では、なぜか大晦日はすき焼きでした。何年続いたかは解りませんが……。丁度その時、Aさんも一緒でした。みんなで楽しく食べて、お肉が足りなくなって……遅い時間に買いに走ったのが、とても印象に残っています。

Aさんがギター、新ちゃんがマンドリンで、私も歌っていたでしょうね。

ただただ懐かしく、とても癒された気分になりました。

Aさんってそんな方だった気がします。今どうしていらっしゃるのでしょうかね。……どんなに驚かれたかと思います。私にまで記憶を呼び戻してくれて…、胸がいっぱいになって涙、涙でした。

でも、思い出があるっていいものです。

今でも我が家は、大晦日はすき焼きです。
お肉を買いに走った話は、すき焼きをするたびに、母に聞かされていましたよ……。

<古い友よりの便り> H21. 3. 4

荒牧一恵様

あいつは元気でやってるかなーと思い、荒牧新一をクリック検索してみました。突然「永眠」という文が飛び込んできて「えっ、なんだこれは、別の荒牧組だよな」と思いどんどんクリックしていくとまぎれもなく、あの氏家の荒牧組。社長の雑談も全部読まして頂きました。涙涙で何度も何度も…

<中略>

そのうち逢いに行こうと思いつつ、人間は永遠じゃないって事に何故気づかなかつたのか、全く馬鹿者です。

昭和40年に武蔵工業大学に入学し、学科は違ったのですがいつの間にか知り合いになっていました。多分同郷ということがわかつて親しくなったのだと思います。下宿は一駅違いで、彼が祐天寺、私は学芸大学、お互いの下宿同士は歩いて7、8分でよく行き来していました。雑談に出てきた図書館というのは、ちょうどその中間にあたる目黒区立守屋図書館です。「ひまだったので荒牧と守屋図書館に行ったが、満員だったので祐天寺駅前でパチンコをやった」と日記に書いてありました。彼のおかげで山本周五郎の作品、中味は殆ど覚えていませんが7つくらい読んだ記憶があります。

<中略>

マンドリンの事が書いてありましたね。写真を見て懐かしく思いました。

あのマンドリンは確か伊豆大島だったかマンドリン製作家がいて、そこに製作依頼し、何か月かかって完成、船で持ち帰ってきた逸品です。本体裏側はべっ甲で出来ていて、素人がみても高級手工品だと分かります。

当時でウン十万円、今だったら0が一つ多いでしょう。

ちなみに、私のギターでさえ3万円の手工品で月の仕送りが2万5千円(大卒初任給)でしたから、分かると思います。ちなみに、私もギター奏者だったのです。彼はマンドリンクラブ、私はギター研究会に所属しており、下宿で2重奏をずいぶんやりました。2重奏曲集を買ってきて、彼がメロディ、私が伴奏部分「ストップ！ストップ！そごんとっからもう1回」と…、共に絶好調時代でしたから1曲2、3回やり返せばノーミスで演奏できました。

<中略>

思い出はいっぱいありますこの辺で。5月か8月に帰郷しますので寄らせて頂きます。社長の雑談楽しみに読ませて頂いています。

今どこの業界も今までにない苦しい状況です。よい薬も悪い薬も、薬自体がないのです。でも、この反動は必ずきます。それまで、じっと耐え忍べられるかどうか、頑張るしかありません。我々も頑張ります。おこがましいですが、荒牧組ガンバレ！！

拝啓 A様

民やん(夫がいつもこう呼んでいましたので)ほんとうにほんとうにお久しぶりです。このたびはEメールほんとうにほんとうに有難うございました。新ちゃんが、あちらから私に手紙をくれたかの様に嬉しく拝読いたしました。

何十年もお会いしていませんでしたが、いつも「民やんどうしてっかな～」と夫は言っておりました。私たちは、いつも二人で民やんの噂はしておりました。

結婚前、三人で会ったこと、昨日の様に覚えています。「あのとき民やんが反対していたら、あんたと結婚しなかったかも」などと、マジで言っていましたよ。新ちゃんは、本当に民やんが大好きでした……。

夫の一周年も終り、このブログもどうしようかなどと考えていた時でしたので、Aさんからのこのメールは本当に驚きました。夫が「続けなよ……」と言っている様な気がしましたので、もう少し続けてみようかと思っています。

<新しい春に> H21. 2. 21

今年も、かたくりが薔薇をしっかりと抱えながら赤い芽を出しました。

もうあれから、1年が経ってしまいました。

自然は、本当に裏切ることなく、新しい春を、新しい命をもたらしてくれます。私たちの生活の営みもほんの少しづつ変化をさせながら、新しい未来に足を踏み入れていかねばならないのですね……。

人ひとりの力って、本当にさきやかなものです。私なんかいなくても…とか、こんな事しか出来ないのか…などと、自問自答しながらやっている毎日ではあります……。

ゆったりと、大きな力や流れが、春のこの時期には本当に感じることが出来るようです。この思いを信じながら、今年1年がんばろうかと思っています。

<立春に> H21. 2. 4

春は名のみの……と言われる様に、まだまだ寒い日々ですが、今日は立春です。寒さも緩みはじめ、ここも少しかかる緩みはじめる頃ですね……。

私はというと、大きな仕事を終えた後のだるさが抜けずに困っています。そして、昨年の今頃の事を思うと、体が凍りついてしまう様になります。

今でも時折、酸欠状態の様な気持になっている自分がいます……。

それでも、春の気配はうれしいものです。自然の恵みに感謝をしつつ、前を向いて歩んで行こうと…思っている今日このごろです。

<母のこと> H21. 1. 13

昨年12月31日、母が亡くなりました。

皆様には本当にお世話になり、有難うございました。2か月弱、病院生活を送りましたが、最後まで気丈夫で母らしい最期であったと思います。

母を語るには、沢山ありすぎて困ってしまうほどです。大正・昭和・平成と激動のなかを「たくましくしなやかに生きぬいた人」という表現がぴったりでしょうか。母から語り教えられた事と共に、想像するだに、苦労のなかった事とは言えない人生だったと思います。……が、母を観ていますと、ちっとも苦労が顔に現れないひとでした。いつも穏やかな優しい表情を持ったひとだったと思います。

そして、私が一番見習わねばならないこと、それは自分を「律」すること。自分にたいへん厳しいひとでした。しかし、他人にはいつも優しく思いやりのあるひとだったと思います。

まだまだ、母のことは語りつくせませんので、これから折にふれてお話したいと思います。

我家の大プロデューサーを失い、すこし戸惑っている私たちです。

<今年の終りに…> H20. 12. 26

あと数日で2008年も終わろうとしています。

今年は、私にとりまして、人生最悪の年だったと思っています。もうこれ以下の事ってないだろう…と開き直りの日々だったような気が致します。もう何も恐いものはないという思いまでいました。

そんななか、皆様のはげましやお助けを頂き、何とか無事に年を越せることが出来そうです。本当に感謝を申し上げたいと思っております。

生きずらい世の中ではありますが、もう少し良い時が来る事を願いつつ、新しい年を迎えたいくと思っております。

どうかご自愛のほど、よいお年をお迎えくださいますよう、お祈り致します。

<冬支度> H20. 12. 15

みんな落葉樹は葉を落とし、すっかり冬じたくの様相です。しばらく庭仕事も手つかず、放つたらかしの庭は落ち葉だけで、なんとも情けない風情です。

母が毎年、ていねいに落ち葉掃きをしていた事を改めて思い知らされています。

ほんの少しの時間を見つけ、庭の刈り取りをしました。思わず手を止めました。古いハランの葉の下から、真緑の芽がぎっしりと「いつでも芽を出せるぞ」とばかり、スタンばっていました。何だか少し元気をもらった様な気がしました。

<風のガーデン2>

涙なしでは観られないのですが、毎週、娘たちと楽しみに観ています。あつという間の1時間で…、あつという間に最終回になってしまいました。

中井貴一は、ちょっと健康的すぎるのだが…。

それはまあいいが、緒方拳の演技は何だか心が痛いようです。ついガンバレと言ってしまうほど真にせまったくものが感じられて…。最後の作品になってしまったみたいですが、こんなに私たちを引きつけてしまう「力」とは一体なんなんでしょう…。

<眠り姫> H20. 12. 2

母が体調をくずして入院しました。

「わたし ねむくて ねむくて しかたがないの」と言って、ブツブツと眠りこけてしまいます。まるで眠り姫、いや眠り山姫のようです。

かと思うと、すっきり目覚めると
「りょうくん、あゆちゃんは風邪は大丈夫かい？」
などど、ひ孫の心配をしたりします。

いまのところ、痛いところがなく、落ち着いた状態なので安心しています。いつも、いい顔でいてくれるのが何より有り難いと思っています。

まるで少女の様な寝顔から、幼い日のことなど夢でもみているのでしょうか。

以前、夫が、雑談で書いていた様に
「山姫さま、もう少し頑張って長生きして下さい」と思いつつ、病院を後にする毎日です。

<菊> H20. 11. 5

そろそろ里にも紅葉が下りて來たようです。まわりの景色も、何だか香ばしい様な気がいたします。

我家の庭は、いま野菊(野こん菊)が美しいです。



「仏さんにあげてね」と、山盛りの小菊のむこうに、なつかしい荒牧組OB. Yさんの笑顔がありました。
あまりの美しさに感動！仏壇にあげた残りも、どっさりと玄関の花びんに飾りました。



先週話題にした県庁前のマロニエ並木の写真を載せてみました。



<マロニエ並木> H20. 10. 27

先日、久しぶりに県庁前の桺の並木を通りました。私は遠まわりでも、宇都宮へ行くと必ず、あそこを通ります。

ひとあし早く色づきはじめた葉っぱは、モミジや銀杏のように派手ではないけれど、とっても渋く美しいと思います。私は、並木と名の付ぐなかで一番好きかもしれません、あのマロニエ並木は…。

天に思い切り手を延ばした様な冬の裸木、春のやわらかい日ざしをいっぱい吸い込んだ新緑、そして日ざしを完璧シャットアウトし涼をくれる真夏の並木……、いつどんな場面でも、すごい存在感だなあと思います。

パリのマロニエにも劣らないかも…。

<おいも掘り>

週末、孫たちといも掘りに行ってきました。
春、植え付けた苗がこんなに大きなさつま芋に育っていました。

おまけで大根も抜かせてもらいました



おいもも大きくなったけど、良くんも大きくなったよ～。

<どんぐり> H20. 10. 21

「はやく ちっち つりつり行こうよ～」と良太にせがまれ親子でフナ釣りに出掛けました。

ほどなく写メールが来て、魚と良太の満面の笑顔が送られて来ました。その後、また写メール「良太は何とか釣りとか何とか採りとかが好きそうです」と父親からです。

夕方、帽子いっぱいのどんぐりをお土産に持ち帰りました。さっそく、どんぐりのコマを、剛くん作らされました。

良くん、いい一日だったね。



今、我家の庭のツワブキ(石蕗、艶蕗)がとてもきれいです。

名前の由来は、艶蕗(つやはぶき)「葉に艶のある蕗」から転じたものだそうです。キク科の多年草で、茎と葉は打撲や火傷にも効き、フキと同じように茎は食用になるそうです。



<セイタカアワダチソウ> H20. 10. 14

連休に、久しぶりに孫たちとグリーンパークに行ってきました。5年ぶり位でしょうか。コスモスが見ごろで素晴らしかったです。コスモスもいいのだが、私は鬼怒川沿いのセイタカアワダチソウがどうしても気になってしまいます。

この花、すごい繁殖力で、あつという間にはびこります。つい先頃まで、花粉が喘息に悪いということで嫌われものでしたが、虫媒花で風媒花でないという事が分かりました。

私は、なぜかこの黄色い花が好きで庭にも2~3本残しています。すすきと合わせると、よい風情がある様に思います。



グリーンパークのコスモス



セイタカアワダチソウ

<科学・化学…>

連日、ノーベル賞の話題が各メディアでとりあげられていますが、暗い話題ばかりの日本に明るい希望の光の様に輝いています。科学者の裾野は、かなり広いのだろうなと想像します。どこかの解説者が「科学って文学と同じなんです。ロマンなんです。」と言った言葉がとても印象的でした。

今、どこを歩いても、キンモクセイの香りに出会います。我が家の中から、両どなりの垣根からも…



<風のガーデン>

風のガーデンを観ました。風景、花、音楽、とても気に入りました。本当に風を感じられる景色には感動です。話は、深く重たそうですが、これからが楽しみです。

富良野には、結婚30周年のとき、夫と歩いて来ましたので、風景とともに重ねて観てしまう様な気がします。

ちなみに、スノードロップは、1月1日の花で、私の誕生花です。

<うんどうかい> H20. 10. 6

先週、今週と孫の運動会があります。

昨年も、一昨年も、なぜか感動して泣いてしまいました。年をとると、なんだか涙もろくなるようです。子供達の可愛らしい姿は、本当に心に潤いを与えてくれるものですね。

この子たち皆が、幸せな営みが出来ますようにと祈らずにはいられません…。

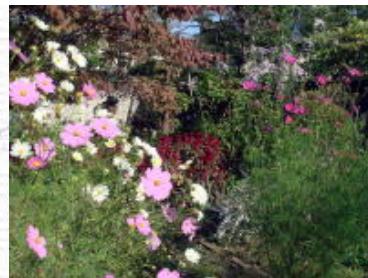


我が家の中庭も、すっかり夏の疲れが出てしまったみたいな風情になってしまいました。
コスモス、紫苑、鶴頭、などなどがみだれ咲きの様な景色です。そのなかにオキザリスのピンクの花が美しく目をひきます。





オキザリス



<人生って…>

人生はまるでデニムのようだと、私は思う。

青春をおろしたての真新しいインディゴブルーにたとえるとすると、年を重ね人生が進むにつれて、そのデニムの青は少しずつ風合いを増しながら、さまざまに変化していく。

ある時には糸がほつれ、穴が空いたりもする。けれど、歴史とともに素敵に色褪せたその青には、若き日のあのインディゴにはなかった深い味わいが生まれているはずだ。

私のデニムも、愛したり、笑ったり、悩んだり、泣いたりしながら、いつか私だけの特別な色合いになっていくのだろうか。

竹内まりや

先日、竹内まりやのCDを貸して下さった方が居て、ジャケットの中にあった一篇にとても心ひかれましたので、載せてみました。



BACK